

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム朝里 1Fひだまりの家	評価実施年月日	平成20年3月8日～3月12日
評価実施構成員氏名	飯田 紀子 ・ 佐藤 ひとみ ・ 松田 洋子 ・ 田中 丈夫 ・ 後藤 弘美 ・ 宮崎 孝 ・ 水上 千恵子 ・ 田中 博美		
記録者氏名	田中 博美	記録年月日	平成20年3月8日～3月12日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	入居者様の経験、個性、思いを尊重した自立支援をさせていただくという内容の理念を作っています。		
<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ホーム内の数箇所に理念の掲示を行い、管理者と職員は理念を理解し、実践できるように努力しています。		
<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らしていることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族に対しては、入居時に説明している。地域の方には運営推進会議でお話しています。今後はもっと浸透するよう、地域の行事に参加していきたいと考えます。		
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近所に人通りが少ない事もあり、機会は少ないが行き会う際にはいつでも見学や遊びに来て下さるよう声をかけるようにしています。		
<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	機会は多くはないが、系列病院で行われる祭りに参加したり、保育園との交流を行っています。		
<input type="checkbox"/> 事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	行っていません。	○	今後は、運営推進会議で話し合っていきたいと思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価、外部評価を実施する意義は理解できていると思われる。評価を議論して改善に取り組んでいたも、最後まで取り組めてない所がありました。</p>	○	<p>評価に対して、改善できているかどうか、より良い対策はないかを、評価後だけにするのではなく、もっと話し合う機会を増やしていきたいです。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議にて、ホームや地域での取り組みや現状、悩みなどの話し合いを行ってきました。評価を利用した話し合いは行っていませんでした。会議での意見をサービスの向上に活かす機会がありませんでした。</p>	○	<p>今後の運営推進会議では、評価をもとにした話し合いをしていき、サービスの向上に活かしていきます。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>行われていません。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>権利擁護や成年後見制度について、職員と学ぶ機会を作っていませんでした。管理者、計画作成者のみが必要性の把握をしており、必要な入居者様には活用し、支援をしています。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持っていませんでした。</p>	○	<p>高齢者虐待についての勉強会や話し合いの機会をつくり、資料等いつでも閲覧できるようにしていきます。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入居時に重要事項、契約書の説明を行い、家族様の疑問等について説明を行っています。又その都度家族様からの疑問等については説明し理解を得て行く様にしています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見、不満、苦情を頂く機会はありませんでしたが、いつも同じ入居者様でありました。内容としては、夜間職員一人配置に関してでありましたが、運営には反映できていません。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族様へは、面会時に管理者や職員が近況をお知らせしていましたが、職員の異動等に関しては積極的には知らせていませんでした。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見、不満、苦情を受け付ける意見箱の設置をしていますが、開設して以来、投かんはありませんでした。	○	今後、意見を頂けた場合、意見と回答を分かりやすい場所に掲示していきます。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回程度、各ユニット毎に会議を開いている。その際、運営に対する意見や介護に対する意見を聞くようにしている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者様の状態が変わり、夜間の職員配置態勢の話し合い等を行っています。勤務の調整も出来る限り柔軟に対応出来る様に努めています。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	管理者は、職員の異動や離職が入居者様へのダメージがあることを良く知っており、変わる場合には、出来るだけの配慮をし、説明を行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	小樽市グループホーム協議会の研修や、法人内で開催される褥創やおむつの勉強会に参加を促している。	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	法人内の医療相談員を通じ、他のグループホームからの情報を取り入れている。	○ 同業者との交流や勉強会、研修を行っていきたいです。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	管理者は、職員の悩みの聴取をできるだけ行うようにしています。又4週8休の定休以外で夏休み2日をあたえ、リフレッシュできるよう取り組んでいます。	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	努力や実績により表彰制度を設けています。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	入居前の面接時に、聴取可能な場合は気持ちを受け止めるよう努めますが、ほとんど訴え等を聞く事は出来ません。入居後に言語的コミュニケーションや、非言語コミュニケーションから思いを探り、受け止めて個々に一番良いと思われる援助を行う努力をしています。	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	できるだけ、互いに本音で話せるような雰囲気づくりをしています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	行っていません。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	全ての入居者が納得してからサービスがなされているとは限らず、ご家族様の意向で入居が決まってしまうケースが多いのが現状です。只、環境の変化にできるだけ慣れていただけるように、ご家族様からなじみの物や会話のキーワードのようなものを聞き取ってサービスに反映させていただいたりしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者様の人格を尊重した上で、対等に人として温かく接し、時には喧嘩したり、意見をいいあい、成長させていただいております。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様との関係づくりは入居者様同様、互いに本音で話せるような雰囲気づくりをしてきました。開設当初からのご家族様とは、入居者様とは直接関わらない事でも気軽に話ができる様になってきています。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居者様とご家族様の関係や状態を把握し、より良い関係がもてるように、入居者様の思い、ご家族様の思いをつなげるように努力しています。	○	ご家族様との交流が面会等に限られてしまっているので、お便り等でもっとまめに交流を図り、より良いサービスをしていきたいです。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者様が会いたいとおっしゃる方に連絡を取り、面会する機会をおつくりしたり、なじみの理容室などがあればできるかぎり今まで通りの生活ができるように支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	他人同士と一緒に生活するという不自然な中、認知度や介護度のばらつきがあり、トラブルが起こることもありますが、職員が間に入り交わすように援助しています。孤立しないように、お手伝いやレクリエーションを提供させていただき、入居者様同士の関わり合いができるように援助させていただいています。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居された入居者様やご家族様とは、拒否ないかぎり関係を断ち切らないようにしています。リサイクル品を届けに来てくださったり、相談を受けたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の面接で思いや希望を聴取するように努めています。入居後に全く違うものに変化することがおおいにあるので、最新の思い、希望が理解出来るように日常の中で聞き取り、感じ取るようにしています。又、認知度が高くて困難などの場合でも、非言語コミュニケーションで理解できるように努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の面接で生活歴の聞き取りを行っています。しかし、本人からはっきりとした聴取はほとんど不可能でした。この場合、ご家族様や、施設側の協力をいただいたり、入居後に所々本人が思い出して話される内容をサービスに反映できるように努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居後は、今までとは違う環境での生活が始まりますが、最初の状態にとらわれず、環境に慣れてきて徐々にわかってくる生活スタイルをよく観察し、分析するように職員一同努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	可能なかぎり、まず本人と計画について話し合いを行っています。ご家族様とは面会時に話をするようになってしまっているので、作成中や作成後になることが多いです。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	出来ていません。	○	今後は、その都度スタッフと話し合いながら取り組んでいきたいです。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプラン全項目の実施チェックを毎日○×で行い、個別記録用紙の中に実施内容の様子や未実施理由を記録しています。毎日の申し送りや個別申し送りカードで情報の共有ができるように工夫しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ホーム内での生活の決まり事はありますが、入居者様、家族様の要望があればホーム内のリズムを狂わさない様な事は認めています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	特に行っていません。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	専門家にリハビリをしてもらいたいという希望がありましたが、ご家族様と話し合いをし、保健がつかえないとの理由で断念されるケースがありました。出張マッサージ師のサービスを受けている方がいらっしゃいます。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	協働していません。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	かかりつけの病院の看護師と入居者様の様子について相談は行える環境にはあると思います。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	脳外科や神経科の受診援助をする事ありましたが、相談等をしても高齢を理由にきちんとした治療はされてきていませんでした。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	系列病院の看護師に相談等をしています。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入居者様が入院した場合、安心して過ごせる様にホームでの生活状況や性格、ADL等を医療関係者への情報提供をきちんと行っています。又、入院後の状況を把握する為に連絡を取り、早期退院に向けて働きかけています。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期のあり方については早い時期からの話し合いは行っていません。重症化した場合ホームの母体が病院の為、かかりつけ医と相談して大体が病院入院の方向性となっています。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	できること、できないことの見極めをかかりつけの医師や看護師に相談し、出来ない事は、どう対応したらいいかの助言を受けながら、対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他のグループホームへ移る方がいました。本人には何故移るかの説明を行い納得して頂いたり、関係者間とも話し合いを行い、当ホームでどの様に過ごしていたかな等、他情報提供書を</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>プライバシーに当たるような話しは居室内ですよう努めていますが、急な場合は対応しきれない場合もあり、今後検討したいです。記録に関しては、鍵のかかる書庫内に保管するなどしています。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の状態に合わせた質問や、気持ちを表出出来る様な話し方を行い簡単な事は自分の意思、思いで行える様な暮らしの支援を行っています。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>他の入居者様や、ホームの時間の流れに合わせてようされる入居者様がいらっしゃる。本当の意思や希望を引き出すように注意し、又、できる限り思い通りに過ごせるように援助しています。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>希望する方は近所の美容室を利用したり、家族の方の協力を得て望む店での理美容を利用しています。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>見守りをする事で出来る事を一緒に行ったりしながら入居者、職員で力を合わせ食事準備、片付けを行っています。又個々人の好みや食べる量を配慮しています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者様が望む食べ物や飲み物があった場合、可能な限り本人と一緒に買い物に行き楽しんでもらっていると思われます。食べたい物があるのに主張できない方にも、チラシを見ていたり、買い物にお連れしたりして楽しんでもらえるようにしています。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	日中はなるべくオムツを使用せず布パンツを使う様にしています。トイレ誘導も入居者の方のリズムをつかみ声かけを行いながら気持ちよく排泄出来る様に支援しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	時間帯は職員の人数の関係で昼間に入る様にしていますが、毎日お風呂はある為、本人の意思を確認し本人が入りたい時に入浴出来る様に支援しています。時に入浴が嫌いな方もいますが、声かけをして入浴期間が開かない様に配慮しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者様のペースは大体、職員は把握しています。毎日同じではなく、時には状況が変わることがあるので、その事に気付き、自力で休息できない利用者様には特に配慮するようにしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者様の得意な事、出来る事を見つけ役割だと感じて行ってもらい、張り合いをもって暮らせるように支援しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	人間がお金を持つ事の必要性を認識して、お金を持ちたいと言う気持ちを理解して、家族の協力を得ながら能力に応じたお金の所持を行っています。買い物の時も側で見守りながらお金を使える様に支援しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	冬以外は洗濯物を干したり、裏の畑に散歩に出かけたりして戸外に出かける様に支援しています。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	普段出かけれ無い所には、家族の協力を得て出かけたり、ホームの買い物の途中に足を伸ばし出かける機会を作っています。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人が電話をかけたい場合は、家族の方の許可を得て電話をかけたり、手紙は頼まれたらポストに投入の支援を行っています。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間は広く、いつでも訪問できるようになっております。入居者様の面会に関わらず、また遊びに行きたいと思っただけのような雰囲気作りを目指しています。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はやむえない場合のみと理解しており、身体拘束は行っていません。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	危険が及ばない限り、日中は施錠していません。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	行っています。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	事故防止の為にやむを得ず保管・管理をさせていただく場合は、入居者様の自尊心を傷つけないように配慮をし、対応させてもらっています。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	行っています。入居者様一人ひとりの状態の変化に応じて緊急マニュアル等の見直しがなされていない。	○	定期的に見直しを行わなければいけない。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	訓練的なものは行っていません。急変時の時の対応は適宜話し合っています。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	民生委員の方は適宜訪問して頂き、グループホームについて理解深めて頂いています。地域の方には協力を得られるような働きかけは行っていません。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	今の状態で、起こりうるリスクについて家族の方に説明をし、リスクが減るような対応策を話し合っています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	行っています。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人ファイルの後ろに薬の説明書をはさめており、必要時何時でも職員が見れるようにしています。又新しい薬の服薬が始まった場合、変化の確認を行う様申し送りにて話しています。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘対策に朝一番の冷水を勧めています。飲水量にも気を付けたり、適度な運動を行うように援助しています。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	三食後毎に口腔ケアを行って頂き、足りない部分は介助して口腔衛生が保たれる様に支援しています。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量をチェックし、好みの物をすすめたり、栄養バランスを考え1人1人の状態に習慣に合わせた支援をしています。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対しての対応の取り決めがあり、毎日の清掃時、適宜感染症がまん延しない様に、取り組んでいます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は週3回近くの市場より配達してもらっています。魚、肉類は新鮮な物を、使うその日に配達して常に新鮮な物を提供できるようにしています。又食中毒予防の為、毎晩の調理器具の消毒を行い衛生管理にも気を付けています。	○	法人内の、管理栄養士に勉強会を開いてもらって食の安全を職員に熟知させていきたいです。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	バリアフリーの玄関周りで、通行人の方の目の触れる所に花を植えたり、菜園を作ったりして、少し大きい普通の家を意識した親しやすい環境作りに努めています。もちろん夜間以外は施錠せずいつでも、誰でも気軽に入って来れる様に配慮しています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	和室を設けたり、家具も普通の家庭に有るような物を選び、落ち着ける雰囲気作りを大切にしています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビ側にソファー置き、入居者同士自由に過ごせる様にしています。又トイレ付近に作り置き椅子があり、居室以外にも1人過ごせたり、時に気の合う入居者の方と過ごせる様な場所作りも行っています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	6畳の居室に物入れ、棚を設置し、あとは本人、家族の方と相談して頂き、使い慣れた物や好みの物を持って来て頂き、住み慣れた環境を彷彿させる様な工夫を行っています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	24時間強制換気を行い、日に2回は温度、湿度チェックを行い、必要時窓を開け換気を行っています。適宜入居者様の状態を観察しその状態にあった温度に保つ様配慮しています。又トイレの不快感な臭いに対しては芳香剤、消臭スプレーを使用しています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者様の身体機能を活かした自立した生活が送れる様に各所に手すりを設けたり、歩行時の邪魔になる様な物は床に置かない配慮をしたり、トイレも各麻痺側対応で使いやすい様に配慮した作りになっています。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	各居室前には名前を入れており、自分の部屋の目印になるようにのれんを付けたりして混乱や失敗を防ぐようにしています。常に入居者様の行動を見守り自立出来てと思われる様な環境作りの工夫をしています。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	外回りには花を植えたり、野菜達を植えたりして日々四季を感じられる様な空間作りを行っています。又洗濯干し台を設置し普通の生活を楽しめる様な配慮をしています。。		

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	③
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	③
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	②
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	③

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	③
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	② 入居者様からみて
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	②
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	③

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)